

**三重県文化振興計画  
令和7年度評価シート**



# 1. 環境をつくる

## (1) 成果指標

| 指標                                          | 計画期間          |                  |                  |                  |          |
|---------------------------------------------|---------------|------------------|------------------|------------------|----------|
|                                             | R4<br>—<br>実績 | R5<br>目標<br>実績   | R6<br>目標<br>実績   | R7<br>目標<br>実績   | R8<br>目標 |
| 参加した文化活動、生涯学習に対する満足度(※1)<br>※みえ元気プランのKPIと同一 | —<br>75.5%    | 73.6%<br>77.0%   | 74.6%<br>76.9%   | 75.5%<br>77.9%   | 76.6%    |
| 県立文化施設の利用者数(※2)<br>※みえ元気プランのKPIと同一          | —<br>98.2 万人  | 100 万人<br>104 万人 | 130 万人<br>147 万人 | 130 万人<br>117 万人 | 140 万人   |

※1：県立文化・生涯学習施設が実施した展覧会、講座、公演事業および歴史・文化資源を活用した事業におけるアンケート調査で、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」のうち、その内容について「満足」と回答した人の割合

※2：県立の図書館、博物館、美術館、斎宮歴史博物館および三重県総合文化センターの利用者数

## (2) 参考指標

| 指標                                                 |                                                | R4<br>実績       | R5<br>実績       | R6<br>実績       | R7<br>実績         |
|----------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| 文化振興課及び県立文化施設のウェブサイトへの月平均アクセス数(※3)                 |                                                | 619,236<br>件/月 | 631,690<br>件/月 | 672,767<br>件/月 | 1,116,535<br>件/月 |
| 県立文化施設がさまざまな主体と連携して行う出張講座や移動展示等のアウトリーチ活動への参加者数(※4) |                                                | 10,341<br>人    | 12,927<br>人    | 13,121<br>人    | 14,556<br>人      |
| 県立文化施設間の連携事業の実施数(※5)                               |                                                | 31 件           | 73 件           | 71 件           | 60 件             |
| 施設利用者の満足度(※6)                                      | ①展示内容<br>※三重県総合文化センターを除く                       | 71.7%          | 76.1%          | 77.7%          | 77.6%            |
|                                                    | ②説明・キャプション(展示解説パネル等)のわかりやすさ<br>※三重県総合文化センターを除く | 70.4%          | 61.7%          | 62.6%          | 68.6%            |
|                                                    | ③職員の対応(言葉づかい・マナー、対応内容等)                        | 68%            | 67.5%          | 77.3%          | 77.4%            |

※3：県が管理運営するインターネットのホームページ「三重の文化」への月平均アクセス数及び県立文化施設（三重県総合文化センター、県立美術館、県立図書館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館）が管理運営するウェブサイトへの月平均アクセス数

※4：県立文化施設がさまざまな主体と連携して行う出張講座や移動展示等への参加者数

※5：県立文化施設間の連携事業の実施数

県立文化施設（三重県総合文化センター、県立美術館、県立図書館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館）が連携して実施した事業の数

※6：県立文化施設の来館者アンケートにおける次の項目について、4段階評価で「満足」と回答した人の割合

### (3) 取組概要

#### 基本施策1：県民の文化に対する関心及び理解の醸成【重点】

##### 【総合文化センター】

##### (令和7年度の取組結果)

- ・ 文化会館事業・普及型公演事業(ワンコインコンサートシリーズなど)
  - ①ワンコイン8回開催 年間平均入場者数:883 人
  - ②オンステージ2回開催 年間平均入場者数:170 人
  - ③総文レコーディング1回開催 入場者数:255 人
  - ④Mゲキ4回開催 年間平均入場者数:244 人平日昼間のワンコイン、オンステージや小劇場演劇の集客がこれほどある地方都市は全国的にも稀であり、シリーズのブランド化が図られている。
- ・ 広報誌の発行  
M ニュース(vol.150,151,152,153)を発行済。Vol.152 では工事休館情報に加えて、アウトリーチ事業(出張そうぶん)を特集した。県立文化施設(図書館・MieMu・美術館)との連携情報も掲載。
- ・ 総合文化センターPR事業
  - ① 4/25～5/11 そうぶんのこいのぼり 1,440 人
  - ② 5/11 モリモンスターをつくろう! 52 人
  - ③ 6/7～7/6 そうぶんのたなばた 2,305 人
  - ④ 7/19～8/31 アソボ・マナボ・タノシソウブン のべ 6,080 人
  - ⑤ 11/22～12/7 そうぶんの月灯り のべ 12,974 人
- ・ 生涯学習センター事業(まなびいすとセミナー、楽々シリーズなど)  
三重のまなび講演会、皇學館連携事業、楽々シリーズ、郷土を歩こう、みえアカデミックセミナー、みえミュージアムセミナー、ジョイントセミナーなど様々な講座を開催。受講者満足度:80.4%

##### (残された課題と令和8年度の取組)

- ・ 文化会館事業・普及型公演事業(ワンコインコンサートシリーズなど)  
令和8年度はワンコイン8回、オンステージ2回、Mゲキ2回の開催。引き続きブランドシリーズを継続。
- ・ 生涯学習センター事業(まなびいすとセミナー、楽々シリーズなど)  
今年度同様に様々な切り口で講座を開催していく。また、三重のまなび講演会やクローズアップセミナーなどで、三重県誕生 150 周年に合わせた講座を企画・実施
- ・ SNS での情報発信、ホームページの運営、広報誌の発行  
工事休館明けとなることをふまえて、より効果的な発信、PRを行う必要がある。

##### 【総合博物館】

##### (令和7年度の取組結果)

- ・ 特別展「ポケモン化石博物館」:SNS を活用した広報キャンペーンを展開した。
- ・ 企画展「地獄へようこそ」「発掘された日本列島 2025」:SNS を活用して展示内容の発信等につとめた。「地獄へようこそ」では、フォトスポットを用意したことで、観覧者による SNS 発信も見られた。
- ・ フィールドワーク等:学芸員のフィールドさんぽ6回(1回雨天中止)、冬鳥の観察会 2 回、文化財探訪1回を実施、計 94 名の参加。
- ・ 講座:学芸員フリートーク5回、基本展示スポットガイド5回、わくわくワークショップ8回、館長講座 6回、さんちゃんのお食事会 12 回、三重の自然史を支える次世代育成講座(地学)2回、標本の

名前を調べてみよう(同定会)1回、正月かざりづくり1回を開催、計 1,127 名の参加。

- ・ 企画展、移動展示の講座、ギャラリートークなど:1,024 名の参加。

#### **(残された課題と令和 8 年度の取組)**

- ・ 年 4 回刊行している広報誌「みえんしす」は、バックナンバーも含め館ホームページでの公開を進めていく。
- ・ 「ポケモン化石博物館」の SNS キャンペーンは予算措置を行って実施したが、広報予算が少ない通常の企画展において、効果的な SNS 広報をどのように行っていくかは課題。

### **【美術館】**

#### **(令和 7 年度の取組結果)**

- ・ 美術館ニュース HILL WIDN を 2 回発行。
- ・ ルックバック：近代洋画展会期中：公式 X において、「Look into LOOK BACK」と題した展示作品紹介（全 9 回）を投稿。会場では全出品作品にわかりやすい「ひとこと解説」をつけて好評を得た。
- ・ 橋本平八展会期中：記念講演会「橋本平八について考える」、クロストーク「橋本平八を語る」、ワークショップ「彫刻のためのデッサン会～木に描いてみよう！～」を開催。
- ・ こども向けリーフレット『木彫三昧 橋本平八の世界』を作成、館内、県内文化施設、平八の生地である伊勢市内の児童に無料配付する他、ウェブサイトでデータ公開を実施。
- ・ 三重大学教育学部美術教育コースと連携し、橋本平八展にちなんだ小学生向けワークショップ「夏休みこどもひろば」を実施。
- ・ 美術情報サイト（Tokyo Art Beat）のトップページに 1 カ月間、「橋本平八展」のバナー広告を掲出。
- ・ POP ART 展会期中：美術講演会、手話通訳・要約筆記付きスライドレクチャーを実施。
- ・ ライシテ展会期中：美術講演会、スライドレクチャー、ギャラリートークを実施。
- ・ 共生社会推進事業：ひきこもり支援センターと協働しワークショップ・キットのプロトタイプを作成、やさしい日本語の職員向研修、やさしい日本語をもちいたコレクション展の開催、触察鑑賞研究会の実施、音声ガイドの作成・公開、それらの成果を広く共有するための報告書を作成。難聴者、中途失聴当事者の方々と事前打ち合わせを行いながら、鑑賞プログラムを企画運営。
- ・ 教員・元教員で構成される JAMM(Joyful Art Museum MIE)研究会と協同し、JAMM キッククラブ(鑑賞会)：4 回開催、60 名の参加。

#### **(残された課題と令和 8 年度の取組)**

- ・ 情報発信に努めるとともに、様々な対象に向けた教育プログラムを企画・実施。

### **【斎宮歴史博物館】**

#### **(令和 7 年度の取組結果)**

- ・ 斎宮を核とした文化観光を推進するため、博物館及び史跡斎宮跡のにぎわい創出を目的に、明和町や地域の諸団体と連携して展覧会の会期と連動させたイベント、ワークショップ、誘客キャンペーン等を実施。
- ・ 特別展、春季・夏季企画展に加えて、冬季企画展、秋季と冬季に企画展示を新たに開催、連動させたキャンペーン等を実施。

主なキャンペーン等の実績は以下のとおり。

- いつきのみや歴史体験館やさいくう平安の杜などの史跡内施設と連携して、史跡内を巡る企画：スタンプラリー（夏季企画展：参加 969 人）、電気自動車「もうぐる」乗車体験ツアー（GW、特別展開催中の土日祝日など実施：参加 403 人）、壺装束試着＋もうぐる乗車周遊ツアー（4 日 34 人）、特別展と連動して開催したお化け屋敷（映像展示室）＋史跡内クイズラリー（参加 3,177 人）などを実施。
- 博物館内：エントランスホールを活用し、巨大段ボール迷路を実施（夏季企画展、冬季企画展等開催期間中）、特別展のサテライト展示（全国科学館連携協議会との連携展示）、さまざまなワークショップを実施。いずれも好評を得た。
- 斎王まつり（6/7）に連動させた春季企画展の関連事業：トークイベント＆写真撮影会「続・清田のぞみと学ぼう！斎王の旅のよそおい」を開催。1,480 人の入館利用。  
3 月の「三重県誕生 150 周年事業 斎宮への情熱」展の会期中：こどもわいわいフェスティバルが開催される 3/20 に、「斎王まつり」でたどる「斎宮跡の足跡」のイベントを実施。
- これらの取組の結果、年間の入館者数は、65,111 人。令和 6 年度の年間実績（59,008 人）を上回った。展覧会の満足度も高く評価（77.3%）された。
- 多彩な展覧会と連動させて子どもから大人まで楽しめるイベントを実施したことにより、多くの来館利用を得るとともに、子どもから大人まで幅広い年齢層の利用を得ることができ、斎宮の歴史と文化に関する関心と理解を幅広く喚起することができた。
- 団体利用を促進するために、県外の旅行会社や団体に向けて P R 資料を送付するとともに、団体旅行向けのキャンペーンを行った結果、163 団体 4,560 人（昨年度比 132%増）の効果が得られた。

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- 現在進めている常設展示のリニューアルに向けて、利用者のニーズを踏まえて、誰もが楽しみながら斎宮の歴史と文化への関心と理解を深められる展示の実現に取り組む。
- 歴史ファンだけでなく、子どもから大人まで誰もが気軽に斎宮の歴史と文化に触れ、関心や理解を深められるよう、地元の明和町や地域の諸団体とも連携して、展覧会とともに気軽に楽しみながら参加できるイベント等を組み合わせて効果的に実施することにより、幅広い利用を喚起する取組を継続発展させていく必要がある。
- 斎宮は、伊勢神宮をはじめとする伊勢志摩方面への観光の入口にあたり、文化観光の観点からも、団体利用の促進は重要であり、引き続き、今年度のような取組の継続が必要。

#### 【図書館】

##### （令和 7 年度の取組結果）

- こどもの読書週間（4/23～5/12）にちなんで、新しく出版された絵本の中から「職員のおすすめ絵本 2025」を YouTube で公開した（再生回数 131 回）。
- ブックリストの提供 34 種類

##### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- 県立文化施設の企画展等に合わせ、引き続きブックリストの配布を行っていく。
- SNS の再生回数が伸びなかったことから、再生回数を伸ばす工夫の検討が必要。

## 【文化振興課】

### （令和 7 年度の取組結果）

- 県ホームページに「巡ろう！三重の文化観光」コンテンツを新規追加。9 月に万博で県立文化施設及び文化観光について情報発信を行った。フォロワー数は合計で 400 名以上増加。
- 2 月末に都内で開催される県主催プロモーションで、文化観光の情報発信を実施。

### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- 引き続き、県立文化施設の企画展、文化団体等の活動、文化観光等、多彩な文化情報の発信に努める。

## 基本施策２：県民の鑑賞等の機会の充実

### 【総合文化センター】

#### （令和７年度の実施結果）

- ・ 文化会館事業鑑賞型事業
  - ① 入場率 88.0% ②満足度 98.7% ③収支率 100.3%
  - 完売公演や増席販売公演が続き、全ての指標で目標を大きく上回った。全国的にはコロナ禍からの劇場回帰が鈍い中で、大きな成果といえる。
- ・ 「みえ文化芸術祭」ほぼ例年並みの結果。
  - ① 6/1 入場者数 1,380 人 参加者数 330 人 ②5/24～6/1 入場者数 5,001 人
  - ② 4/27 入賞者記念演奏会 入場者数 307 人 コンクール参加者:246 人
- ・ 文化会館事業県民参加型事業
  - 7/26 おためしWSダンス編 講師:三輪亜希子 受講者数:16 人
  - 8/16 おためしWS演劇編 講師:菅原直樹 受講者数:23 人
  - ＜未実施＞
  - 2/21 体験講座 講師:菅原直樹 受講者数:24 人
  - 3/14・15 老いのプレーパーク四日市公演 初の現地オーディションを実施。入場者数:492 人
- ・ 新日本フィル 29 市町巡回事業
  - ＜南伊勢町&度会町 第1クール実績＞
  - 6/17・18 中学校2校と高齢者福祉施設2か所で訪問コンサートを実施 総参加者数 223 人
  - ＜第2クール実績＞
  - 11/14 小学校1校、中学校1校で訪問コンサート、演奏指導を実施
  - 11/15 ふれあいコンサートとイルミネーション点灯式演奏を実施 総参加者数 951 人
  - ＜第3クール実績＞
  - 2/5・6 小学校3校、高齢者福祉施設1か所で訪問コンサートを実施
  - 2/7 フィナーレコンサートを実施 総参加者数 497 人
  - 開催地の関係者から絶賛をいただいている活動。
- ・ 地域開催の「ワンコインコンサート」
  - 松阪3公演を開催。平均入場者数:396 人
  - 2/14 紀北町 入場者数 296 人、3/20 いなべ市 入場者数 464 人
- ・ 地域開催の「みえ県展」 6/7～6/15 東員町移動展 1,173 人 千人超えの大入り。
- ・ M-PAD 11/12～22 総参加者数: 430 人
- 今年度は初めて尾鷲市で開催。現地からも高評価。

#### （残された課題と令和８年度の実施）

- ・ 文化会館事業鑑賞型事業：令和８年度のラインナップ確定
- ・ 「みえ文化芸術祭」の開催：令和８年度も同内容で計画
- ・ 文化会館事業県民参加型事業：松阪市と共催で体験講座と巡回公演を開催。
- ・ 新日本フィル 29 市町巡回事業：川越町での開催。
- ・ 地域開催の「ワンコインコンサート」
  - 令和８年度は新たに川越町で買取型2公演の開催が決定したほか、菰野町と多気町で出張型公演を新規開催。松阪市3公演と合わせて年間7公演を開催。順調に新規拡大。
- ・ 地域開催の「みえ県展」：令和８年度は志摩市で開催。
- ・ M-PAD：令和８年度も継続実施。

## 【総合博物館】

### （令和7年度の取組結果）

- ・ 第40回企画展「地獄へようこそ 鬼と亡者と閻魔の世界」 展示観覧者数：24,380人  
仏教美術を中心とした展示構成で、シニア層や古美術愛好者がメインターゲットであったが、夏休み期間中の開催ということで、子ども・ファミリー層に対する取組が功を奏し、想定以上の観覧者を得た。
- ・ 第41回企画展「発掘された日本列島」 展示観覧者数：8,722人。  
文化庁との共催である全国巡回展部分に加えて、地域展示として「王権東へ 伊賀の古墳時代」を開催し、前方後円墳とその出土遺物を中心に、伊賀地域の特色を紹介した。
- ・ 特別展・第42回企画展「ポケモン化石博物館」 展示観覧者数：76,960人  
国立科学博物館との共催で、高い人気をもつポケモンとともに古生物学に親しめるもので、館蔵の化石や化石骨格標本を多数展示した。ポケモン人気のほか、国内最後の巡回展となることもあり、県内外から非常に多くの来場者があった。
- ・ 移動展示「たんけん！はっけん！大台町」 展示観覧者数：773人。  
隔年で実施している移動展示は大台町の協力を得て開催。前年度から町内小学校の協力を得て実施したお雑煮調査の成果を展示したほか、カヤネズミ調査結果と生態展示、社会問題になっていたツキノワグマの剥製標本の展示などを行った。

### （残された課題と令和8年度の取組）

令和8年度は3つの企画展の開催を予定。

- ・ 春季の企画展「まつりを旅する 受け継いできた三重の宝もの」（4/25～6/21）ではユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」にも登録されている県内3つの行事をはじめとする三重のまつりの様々な魅力を一堂に集め紹介する。
- ・ 夏季の企画展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」（7/11～9/27）では、国立科学博物館が所蔵する世界屈指の大型哺乳類はく製コレクション「ヨシモトコレクション」を中心にほ乳類の世界を紹介する。
- ・ 秋・冬季の企画展「みんなののりもの 三重の鉄道大集合」（10/24～2/28）では、実物大模型など体験性豊かな資料のほか、貴重な鉄道コレクション資料も紹介し、幅広い世代が楽しめる展示をめざす。
- ・ 大規模巡回展の開催は、集客を含めたメリットもある一方で、職員の負担も大きい。博物館が継続的に良質の企画展を県民に提供していくためにも、調査研究業務を着実に進める必要がある。
- ・ 隔年で実施している移動展示については、調査研究を含めた地域との連携を重視しているため、準備期間・時間の確保が必要。開催地域の選定・調整に時間を要しており、安定的な実施のための仕組みづくりが課題である。

## 【美術館】

### （令和7年度の取組結果）

企画展、コレクションを活用した常設展示、特別展示、本県にゆかりの深い作家・作品等を紹介する小特集等を開催。

- ・ ルックバック：近代 洋画 観覧者数：4,134人
- ・ 没後90年橋本平八展 観覧者数：5,113人
- ・ ポップ・アート 時代を変えた4人 観覧者数：9,918人

- ・ ライシテからみるフランス美術 観覧者数：8,374 人
- ・ コレクションを活用し、企画展「橋本平八展」にちなんで、詩人として評価の高い橋本平八の実弟を紹介する「小特集 北園克衛」を開催。
- ・ 戦後 80 年／昭和 100 年にちなんで、コレクションを活用した特集展示「クローズアップ 1950 年代」を開催。
- ・ 「第 44 回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～」にちなんで、海をテーマにしたコレクション特集展示を開催。
- ・ 企画展「ポップ・アート」展にちなんで、所蔵品による関連展示を実施。
- ・ 企画展「ライシテからみるフランス美術」にちなんで、所蔵スペイン美術による関連展示を実施。
- ・ 三重県立こころの医療センター出張プログラムを実施、6 人参加。
- ・ 図書館との連携事業として「ポップ・アート時代を変えた 4 人」関連イベント 展覧会がもっと面白くなるアート&ブックガイドを実施、11 人参加。
- ・ 美術館友の会と共同し、菰野町、名張市、松阪市、鈴鹿市、いなべ市、志摩市で美術セミナーを開催、242 人参加。

#### （残された課題と令和 8 年度取組）

- ・ ひとつの時代や分野に偏ることなく、地域社会での役割、美術研究の動向や教育効果等を考慮しつつ、国内外の優れた美術やさまざまな表現を通して、利用者が多様な価値観や文化に触れ、自己の世界を広げられる機会を提供する。また、コレクションを活用し三重県にゆかりの深い作家・作品等の紹介を実施する。

### 【斎宮歴史博物館】

#### （令和 7 年度取組結果）

- ・ 例年開催している特別展、春季・夏季企画展に加えて、冬季企画展を新たに開催。斎宮の歴史をメインテーマにしたものだけではなく、工芸作品を展示した秋季企画展「林美木子展～王朝のみやび～」(9/6～9/28) や、妖・鬼・もののけにスポットをあてた特別展「不可思議な者たち」(10/4～11/24) など、多様な切り口から斎宮の歴史の背景となった歴史文化の鑑賞ができる機会の充実をはかり、展覧会の満足度も 74.0%と高評価を得た。
- ・ 展覧会と連動させて子どもから大人まで誰もが楽しめるイベント、ワークショップ、誘客キャンペーン等を実施することにより、従来の主な利用層であった歴史ファンだけでなく、幅広い年齢層、関心度の方々に展示鑑賞をしてもらうことができた。
- ・ 出前講座は、三重大学の日本理解特殊講義や阪急交通社のたびコト塾をはじめ、桑名市、鈴鹿市、津市、松阪市など県内各地で実施、受講者数 1,434 人。

#### （残された課題と令和 8 年度取組）

- ・ 引き続き、研究成果に基づく質の高い展覧会を多様なテーマや視点により開催することにより、良質な歴史文化資産を鑑賞する機会の充実に努める必要がある。

### 【図書館】

#### （令和 7 年度取組結果）

- ・ 7/12 度会町にて「南伊勢高校度会校舎図書館地域開放デー」に協力し、県立図書館のサービス（e-booking や遠隔地返却）の案内を行うとともに、参加者、生徒と缶バッジ作りを行った。参加者 20 名

- ・ 電子書籍サービスを 11/11 から開始。コンテンツ数は約 1,100 冊
- ・ 利用を促進するため電子書籍体験会を実施。11/9：34 名、1/31：41 名

**（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- ・ 引き続き、図書館サービスの周知に努めるとともに、図書館未設置自治体の状況に応じたサポートを行う。
- ・ 多くの方に電子書籍を利用いただけるよう引き続き P R を行っていく。

**【文化振興課】**

**（令和 7 年度の取組結果）**

- ・ 「みえ文化芸術祭」の開催

7/14～8/8 に募集を行い、令和 8 年度分を 12 団体、令和 9 年度分を 2 団体認定。

文化団体への支援を強化し、多くの文化団体に地域自主プログラムの制度を利用いただけるよう希望する団体には次々年度の認定も併せて行えるように改正したほか、「三重の文化」SNS での開催告知や県政記者クラブへの資料提供など広報協力が可能である旨周知。

**（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- ・ 引き続き、地域自主プログラムの認定を行うことで、文化の普及・振興を図っていく。地域自主プログラムの助成がなくなった中で、多くの文化団体が制度を利用したいと思えるよう、効果的な広報協力を行う必要がある。

## **基本施策3：高齢者、障がい者等の文化活動の充実**

### **【総合文化センター】**

#### **(令和7年度の実施結果)**

- ・ みえアールブリュット展、三重県障がい者芸術文化祭等への支援連携
  - ① 三重県障がい者芸術文化祭実行委員会出席(6/24、10/28)
  - ② 12/11 ドキュメンタリー映画「へんしんっ！」上映会&トークセッション開催
  - ③ 12/12～12/14 三重県障がい者芸術文化祭における運営協力等
- ・ 聴覚障がい者に対応した要約筆記等
  - ① 5/10 三重のまなび講演会
  - ② 7/5 みえアカデミックセミナー2025 オープニング
  - ③ 10/13 大型講演会「プレリユード」
  - ④ 11/29「男女共同参画フォーラム～みえの男女（ひと）～」
- ・ 託児サービスの充実 実施回数 52 回、利用者数 117 人
- ・ 英字や点字パンフレットの作成 年間 6 公演で実施。

#### **(残された課題と令和8年度の実施)**

- ・ 三重県障がい者芸術文化祭における運営協力等を継続。
- ・ 聴覚障がい者に対応した要約筆記等は令和8年度も大型講演会等において、聴覚障がい者に対する支援策として要約筆記による情報保障を実施。
- ・ 託児サービスの充実：令和8年度もサービスを継続。
- ・ 英字や点字パンフレットは、アクセシビリティの観点から重要な取組ではあるが、利用がほぼない状況。

### **【総合博物館】**

#### **(令和7年度の実施結果)**

- ・ 夏季の企画展「地獄へようこそ」では、展示を補完するものとして、展示室内に映像による資料解説を行った。また、関連行事「曼荼羅絵解き」について、手話通訳対応とした（希望者は無かった）。
- ・ 国立アトリサーチセンター（NCAR）が運営する「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」を、博物館として受講した。研修プログラムとして、館職員を対象とするWEB研修、NCAR職員を講師にワークショップ形式での博物館での対面研修を実施。なお、県立文化施設職員にも参加を呼びかけ、各施設の職員も受講。
- ・ 「三重の実物図鑑」特集展示「くらしの道具」（1/31～2/22）を実施。

#### **(残された課題と令和8年度の実施)**

- ・ 令和8年度の企画展関連行事において、手話通訳対応のものが設定できるよう検討する。
- ・ 解説パネルの文字の大きさ、配色など、展示にかかるユニバーサルデザインをはじめとする高齢者・障がい者等への配慮について、チェックシートを用意するなど、各企画展の水準を高めていく。
- ・ 手話通訳対応とした企画展関連行事において、利用者がいない結果となったが、周知不足の問題、対応事業の種類の少なさ、予算措置の問題など、今後継続的に実施していくためには課題が残った。
- ・ 誰でも博物館を楽しめること、アクセシビリティの向上を館全体の課題と捉える意味で、「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」の受講は有意義なものであったが、

一過性のものにならない取組が必要である。

## 【美術館】

### （令和7年度の取組結果）

美術館がつなぐ共生社会推進事業として、「誰もが」利用できる美術館の実現を目指し、障がいのある人のアクセスだけでなく、孤独・孤立の課題を抱えた人々が美術や美術館を楽しんだり、利用したりする機会の確保に取り組んだ。

- ・ 彫刻をさわって鑑賞する美術館スタッフ向けワークショップを実施。
- ・ 「やさしい日本語」を使ったコレクション展示「洋画の きほん」（会期：12/23～3/29）を開催。
- ・ 「やさしい日本語」を使ったコレクション展示で使用した解説文へのフィードバックとして、学芸員を対象に研修会を実施。「やさしい日本語」によるガイドリーフレットの作成についても講師から助言を得た。
- ・ いなべ市ひきこもり支援センターと連携し、美術館に来館しづらい非利用者に向け、当館コレクションを活用したワークショップキットのプロトタイプを作成、保護者会で事業説明と意見交換を実施。
- ・ 「ポップ・アート 時代を変えた4人」展スライド・トークを情報保障付きで開催。
- ・ 美術館初心者の鑑賞学習を支援するため、所蔵品及び美術館の施設に関するコレクションの音声ガイドを作成・公開。
- ・ 発達障がいのある方やその周りの方々にも安心して来館してもらうためのソーシャルガイドの更新を実施。
- ・ 難聴者、中途失聴当事者の方々と事前打ち合わせを行いながら、鑑賞プログラムの企画・運営を実施。
- ・ 乳幼児やその保護者が滞在しやすいよう、エントランスにマットを敷き、絵本、ソフトレゴなどを設置。

### （残された課題と令和8年度の取組）

- ・ 「誰もが」利用できる美術館の実現を目指し、障がいのある人のアクセスだけでなく、孤独・孤立の課題を抱えた人々が美術や美術館を楽しんだり、利用したりする機会の確保に取り組む。
- ・ いずれの事業も当事者や支援者との信頼関係の構築が不可欠であり、丁寧な対応が求められるが、職員数が少なく調整が困難。

## 【斎宮歴史博物館】

### （令和7年度の取組結果）

- ・ 来場者アンケートや博物館利用者との対話を通して、改善点の把握に努め、誰にとっても利用しやすい博物館に向けた設備や対応の改善に取り組んでおり、今年度は、国交省の「心のバリアフリー認定」を取得。
- ・ 常設展示のリニューアルに向けた展示設計にあたって、誰にとっても利用しやすい展示の手法や解説のあり方について検討を行った。

### （残された課題と令和8年度の取組）

- ・ 次年度以降の常設展示リニューアルの施工において、設計の中で検討した結果を踏まえて、誰にとっても利用しやすい博物館展示の実現に反映させていく必要がある。

## 【図書館】

### （令和7年度の取組結果）

大活字本新規受入 191 冊、DASY 資料新規受入 16 冊

サピエ図書館への個人登録新規受け入れ 2 名。

図書館 Web サイトに「やさしい日本語」による利用案内のページで情報を提供。

MIE INFO に「三重県立図書館からのご案内」を掲載、外国人向けに利用案内を行った。

### （残された課題と令和8年度の取組）

引き続き、大活字資料の充実に取り組むとともに、視覚障がい者等の図書館利用に係る環境整備と利用拡大への広報に努める。

引き続き、図書館 Web サイトに「やさしい日本語」による情報を提供するとともに、MIE INFO により詳細な情報を発信していく。

## 【障がい福祉課】

### （令和7年度の取組結果）

#### ・三重県障がい者芸術文化祭の開催

12/12～12/14 三重県総合文化センターで「令和7年度三重県障がい者芸術文化祭（作品展）」を開催した。作品出展数：722 点、参加者数：2,414 人

1/31 にハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿（鈴鹿市文化会館）で「令和7年度三重県障がい者芸術文化祭（ステージ発表）」を開催した。発表者：20 組、参加者数：488 人  
参加者数は作品展とステージ発表を合わせて 2,902 人で過去最多。

#### ・みえアールブリュット展の開催

1/29～2/1 ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿（鈴鹿市文化会館）で「みえアールブリュット 2026」（芸術文化祭受賞作品の巡回展）を開催した。来場者数は 515 人。

2/19～2/22 志摩市阿児アリーナベイホールにおいても同作品展を開催した。来場者数は 423 人。

#### ・企業民間団体等と連携した作品展

10/21～10/26 にシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢ホワイエ（伊勢市観光文化会館）で「三重県障がい者芸術文化作品展」と「第71回伊勢市美術展覧会」を同時開催した。来場者数 600 人。

ワークプレイス栗（就労支援 B 型事業所）と共催し、10/10～10/12 に三重県総合文化センターで「栗のアーティストたち展 vol.9 in 津う」を開催した。来場者数は約 250 人。

10/11～10/13 に久居アルスプラザで特定非営利活動法人ぷてい・ぼぬーるが主催する「第5回 今を生きる展」の後援を行った。来場者数約 450 人

#### ・関係者とのネットワークづくり

8/2 に芸術文化活動支援に関する講演会「その場にいる人と、その場にあるものを活かす仕事づくり」を開催した。参加者数 31 人。講師：くふう代表（※）デザイナーの藪内都氏。

※複数の福祉施設とパートナーシップを結びプロダクトの開発やディレクションを行う。

#### ・アートサポーターの派遣事業

アートサポーターを派遣し、障がい者の特性や個性に合わせた制作環境づくりに関する相談、表現活動に関する相談、イベントの企画・運営方法等に関する相談、作品発表の機会

等の情報提供など、当事者と支援する立場の方の両方をサポートし、障がい者と芸術をつなぐための支援を行った。(令和7年度の相談件数22件) また、令和7年度のアートサポーター新規登録者数は6人だった。。

#### **(残された課題と令和8年度の取組)**

- 三重県障がい者芸術文化祭の開催  
障がい者芸術の作品発表の場を設けるとともに、表現活動を行う障がい者の活躍の場を広げるため、今後も継続して三重県障がい者芸術文化祭を開催していく。
- みえアールブリュット展の開催について  
今後も障がい者による芸術性の高い作品等の創造に対する支援を行っていく。
- 企業民間団体等と連携した作品展  
今後も様々な民間団体等と連携し、三重県障がい者芸術文化祭の受賞作品の展示等を通じて、障がい者芸術を広めていく。
- 関係者とのネットワークづくり  
福祉や芸術等の専門家や事業所、障がい者やその家族等、分野を超えてネットワークを構築していく。
- アートサポーターの派遣事業  
個人や事業所で芸術活動が出来るように支援していくことで、障がい者芸術の裾野を拡大していく。

## **基本施策４：子どもたちの文化活動の充実【重点】**

### **【総合文化センター】**

#### **（令和７年度の実施結果）**

- ・ 文化体験パートナーシップ活動推進事業  
小学生を中心に本物の文化に触れる機会を提供するため、県内の文化施設や実演家等と協働し、65校でアウトリーチ事業を実施。うち特別支援学校・学級などは8校。参加児童数：2110人。
- ・ サマープログラム for KID's アソボ・マナボ・タノシソウブン  
7/19～8/31 アソボ・マナボ・タノシソウブン のべ6,080人
- ・ 三重ジュニア管弦楽団育成事業：毎月3回の練習を実施
- ・ 三重大学との連携協定事業  
12/2 三重大学「演劇入門」  
講師：松浦茂之（三重県文化会館副館長兼事業課長） 受講者数：35人  
9/20・12/14 おしゃべり古典サロン  
講師：田中綾乃（三重大学人文学部准教授） 受講者数：174人
- ・ 社会見学の受入：実施回数10回、参加者数500人

#### **（残された課題と令和８年度の実施）**

- ・ サマープログラム for KID's アソボ・マナボ・タノシソウブン
- ・ 三重ジュニア管弦楽団育成事業、三重大学との連携協定事業
- ・ 社会見学の受入：継続実施。
- ・ 文化体験パートナーシップ活動推進事業の講師が高齢化しており後継者を探しているが、なかなか見つからないことが課題。

### **【総合博物館】**

#### **（令和７年度の実施結果）**

- ・ こども体験展示室：37,008人利用。
- ・ 遠足、社会見学等の受入れ：174校6,942名（引率852名含む）。
- ・ 貸出教育資料であるみえむミュージアムキットの利用：30件。
- ・ 学校と連携した課題探究型学習の支援：9校
- ・ わくわくワークショップをはじめとする体験性を重視した行事・プログラムを実施。文化財主体の展示である企画展「地獄へようこそ」は、子どもにも親しみやすい展示とするため、体験コーナーや子ども向け解説パネルの設置、子ども向け展示マップの配布、子ども向けギャラリートークを行った。

#### **（残された課題と令和８年度の実施）**

- ・ みえむミュージアムキットの貸出は、リピーターもあり、利用は増加している。利用の促進とともにキットの種類の充実も検討していく。
- ・ 学校向けの利用案内の充実をはかり、遠足・社会見学の利用を促していく。
- ・ 学校の遠足・社会見学の利用校数は、昨年度と比較して微減（R6年度187校）した。
- ・ 近年、学校の利用数は減少傾向であり、利用促進のため学校へのアンケート調査や学校訪問による営業などを実施。
- ・ 学芸員講座は学校を中心に利用数が多いが、職員の負担も多く、人気のある講座では対応が困難になっている。

## 【美術館】

### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 橋本平八展会期中に「彫刻のためのデッサン会～木に描いてみよう！～」を実施、49 人参加。（再掲）
- ・ 三重大学教育学部美術教育コースと連携し、小学生向けワークショップ「夏休みこどもひろば」を実施、29 人参加。（再掲）
- ・ 学校からの出張授業の要請に応じて学芸員を派遣、5 校 327 人参加。
- ・ 三重県総合教育センターとの共催研修を実施、半日研修 12 人参加。
- ・ 小中学校長会などでスクールプログラムの説明を行い、美術館の利用を促すとともに、来館した生徒児童に来館目的に即した対応を実施。22 校 800 人の団体鑑賞の受け入れを実施。
- ・ 中学校、高校の職場体験：13 校 38 人 教員との打合せ、生徒からの電話対応、事前訪問等の対応及び受け入れを実施。
- ・ 社会体験研修：小学校教員の受け入れを実施、2 日間 1 人参加。
- ・ 学校教員、元教員有志・JAMM 研究会による JAMM キッズクラブ（鑑賞会）を 4 回開催、60 人参加。（再掲）
- ・ 教職員を対象とした以下の研修会等に職員を派遣。伊勢市教育推進研究会小学校図工部会 42 人、三重県特別支援学校美術教育研究会研修会 25 人、教員のための博物館の日（MieMu での教員研修会）42 人。
- ・ 各課等で夏休みに募集している 5 種類のポスター審査に学芸員を派遣。
- ・ 美術館友の会と連携し、遠隔地の小学生の美術館体験を支援（2 校、153 人）。
- ・ 美術館コレクションを活用した鑑賞教材を 15 校に貸し出し。

### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 引き続き、館内外でこども向けのプログラムを企画・実施する。

## 【斎宮歴史博物館】

### （令和 7 年度の取組結果）

子どもの博物館利用を促進するために、展示室内で利用する子ども向けワークシートのほか、子どもから大人まで親子で楽しむことができるワークショップやイベントを実施。主なものは以下のとおり。

- ・ 春季企画展「斎王のよそおい」（4/19～6/15）：十二単の紋様や檜扇づくりのワークショップ（8 回 125 人参加）
- ・ 夏季企画展「平安貴族のくらしを探る」（7/5～8/31）：展示室を基点に史跡内をめぐるスタンプラリー（969 人）や巨大段ボール迷路
- ・ 特別展「不可思議な者たち」（10/4～11/24）：展示と連動して開催したお化け屋敷（映像展示室）＋史跡内クイズラリー（3,177 人）
- ・ 干支にちなんで開催した冬季企画展示「うま尽（つくし）」：絵馬を描いたりポニーに触れ合えたりできるイベントを実施するなど、多くの親子に利用してもらうことができた。
- ・ 社会見学は、史跡内のいつきのみや歴史体験館（歴史体験メニュー等を利用）とも連携して対応にあたっており、4～1 月で小学校 14 校 779 人、中学校 3 校 104 人利用。
- ・ 地元明和町をはじめとする県内の小中高学校の郷土学習に協力して、発掘体験（3 校

103 人）や出張授業（1 校 19 人）を実施。

- ・ 斎王紙芝居「かわせみ座」による地域小学校等への公演は 3 件。

#### **（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- ・ 引き続き、展覧会や関連するイベント等により、子どもたちが斎宮や関連文化に親しむ機会を充実させることにより、子どもの博物館利用の促進をはかっていく必要がある。
- ・ 今年度は史跡周遊プログラム整備の一環として、いつきのみや歴史体験館や斎宮いつきのみやガイドボランティアなどと連携して、学校利用のためのスクールプログラムの整備を進めていく予定であったが、一般向けの周遊プログラムまでしか取り組めなかったため、次年度に整備を進める必要がある。

### **【図書館】**

#### **（令和 7 年度の取組結果）**

- ・ 子ども向け地域資料の収集 37 点
- ・ 子ども向け読書イベントとして、おはなし会ボランティアグループや職員によるおはなし会を 88 回開催。参加者 1,267 名
- ・ 12 月～1 月に「冬休みお楽しみ袋」を実施、83 セット貸出。
- ・ 大紀町教育委員会へ図書の特別貸出（320 冊）を行った。
- ・ 各学校図書館における選書の参考とされることを目的に児童書新刊閲覧会を開催。  
6/26、6/27 参加者 34 名、2/5、2/6 参加者 19 名
- ・ 8/6 東紀州くろしお学園おわせ分校に司書を派遣し、本の選定方法や並べ方などについての相談に対応。
- ・ 7～8 月に学校図書館を対象とした読書活動推進事業モデル校実践報告会（5 回）を開催。参加者のべ 83 名
- ・ 学校向けの講師派遣事業：10/30 に津市、12/3 に鈴鹿市、3/26 に多気町へ職員を派遣。

#### **（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- ・ 引き続き、子ども向け地域資料収集を進め、子どもたちの学びの支援に取り組む。
- ・ 子ども向け読書イベントとしておはなし会の開催など、子どもたちが本に親しむ機会を引き続き提供する。
- ・ 引き続き、図書館未設置自治体の状況に合わせたサポートを行うとともに、研修会等への職員派遣を行う。

### **【小中学校教育課】**

#### **（令和 7 年度の取組結果）**

- ・ 6/16、9/22 に保健体育課と合同で「令和 7 年度部活動のあり方意見交換会」を開催し、県内の好事例等を情報共有。

#### **（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- ・ 部活動の地域展開の進展、部活動指導員の配置促進について、国の補助事業を活用して各市町が取組を進めることができるよう、引き続き、先進事例の周知等を行っていく。
- ・ 令和 7 年度から運用している人材バンクを県内全域で活用するため、他課と連携して周知に努める必要がある。

## **基本施策 5：文化活動への支援**

### **【文化振興課】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ 文化を切り口に地域振興に寄与する活動を行う団体へのグループインタビューを実施し、活動を行う中での課題等を調査。（県内 4 地域、計 10 団体）
- ・ 8/27 に「文化政策の新しい展開と仕組みづくり ―文化を通じた豊かな社会創造に向けて―」と題した地域創造セミナーを開催。
- ・ 6/27、9/3、11/26 に文化団体等への新たな支援体制にかかる検討WGを実施し、文化振興事業団、岡田文化財団、アドバイザーを交え、議論。
- ・ 取材依頼のあった文化団体等の活動を SNS で情報発信。

#### **（残された課題と令和 8 年度の実施）**

- ・ 文化団体等への新たな支援体制にかかる検討WGを引き続き実施し、アーツカウンシル機能の必要性等についてさらに議論を深める必要がある。

### **【美術館】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ 伊勢型紙技術保存会、鈴鹿市文化財保護審議委員会、四日市市文化財保護審議委員会などに出席し、各市の文化事業に協力。市民展等の運営、審査、展示、講評等に協力し、各市文化活動への支援を行った。

#### **（残された課題と令和 8 年度の実施）**

- ・ 県内市町等の要請に応じて、文化を活かした地域の活性化に協力する。

## **基本施策 6：文化施設の充実**

### **【総合文化センター】**

#### **(令和 7 年度の実施結果)**

- 資料収集、調査研究、情報提供、職員研修、県内外文化施設との連携  
「ワンコイン地域公演」、「新日本フィル 29 市町巡回事業」、「みえミュージアムセミナー」、「人材育成事業（ひと・まち・セミナー）」等での連携を実施
- みえミュージアムセミナー  
三重県総合博物館、松阪市文化財センター、石水博物館、斎宮歴史博物館、桑名市博物館、新規館として式年遷宮記念せんぐう館の 6 館と連携し講座を開催。受講者 734 人。

#### **(残された課題と令和 8 年度の実施)**

- 資料収集、調査研究、情報提供、職員研修、県内外文化施設との連携  
未開催地域との連携を意識しながら令和 8 年度も継続実施していく。
- みえミュージアムセミナー  
新規館の佐佐木信綱記念館を含む 6 館のミュージアムと連携して講座を開催。
- 広報誌 M ニュースの発行  
令和 8 年度は工事休館期間が 4 ヶ月含まれることをふまえ、必然的にイベント情報量が減るため、ページ枚数を削減し発行部数（新聞折込地域）を増やす。

### **【総合博物館】**

#### **(令和 7 年度の実施結果)**

- コーポレーション・デー：9/15 学校法人皇學館、10/4 一般財団法人三重県環境保全事業団、10/26 一般社団法人三重県自動車会議所、11/9 一般社団法人三重県トラック協会、計 4 件を実施、8,712 人参加。
- 岐阜県博物館との交流企画として、相互に学芸員を派遣して各館で講演会を計画したが、8/31 の岐阜県博物館での当館学芸員の講演会は、岐阜県博物館の事情により中止。11/1 の当館での岐阜県博物館学芸員の講演会は、39 人参加した。
- 職員研修として、独立法人国立美術館 国立アトリサーチセンター（NCAR）が運営する「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」を受講し、県立文化施設からも職員の参加があった。（再掲）
- 企業パートナーシップについては、ワンコインクーポンの提供など、各種特典をわかりやすく利用しやすいものに見直すなど改善を進め、会員加入・継続となるよう努めた。

#### **(残された課題と令和 8 年度の実施)**

- 令和 8 年度春季の企画展「まつりを旅する 受け継いできた三重の宝もの」の関連行事として、三重県生涯学習センターと共催で、5 月に連携特別講演会を三重県文化会館大ホールで実施。
- 令和 8 年度夏季は、国立科学博物館と共催で企画展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学国立科学博物館収蔵庫コレクション Vol.01 哺乳類」を開催。
- 令和 8 年度秋・冬季は、企画展「みんなののりもの 三重の鉄道大集合」を開催。

### **【美術館】**

#### **(令和 7 年度の実施結果)**

- 令和 6 年度第 2 回専門委員会の承認を得て増山雪斎作品 26 点を購入、令和 7 年度第 1 回

専門委員会の承認を得て、橋本平八作品等 10 点、第 2 回専門委員会の承認を得て、久保舎己作品 30 点を収蔵。

- ・ 調査研究成果に基づき、企画展 4 本、常設展 4 本（特集展示・小企画含）を実施。
- ・ 全国美術館会議の研究部会（保存研究部会、教育普及研究部会、地域美術研究部会）等において、美術館の使命実現に向けて国内の美術館と広く共同研究、情報交換等を実施。

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 展覧会企画に際しての調査研究はもとより、平時より、収蔵品及び三重県ゆかりの美術家や美術資料を中心に調査研究活動を継続し、県内外の文化施設・研究者と連携しながら、展示・教育普及・収集保存・普及活動・情報提供等諸活動に繋げる。また、博物館法に則り、職員研修の機会を積極的に設けるとともにその成果の共有に努める。

### 【斎宮歴史博物館】

#### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 特別展、企画展などの展覧会事業を充実させるため、資料調査を実施。
- ・ 特別展、企画展と連動させたイベントとして、エントランスホールにおいて、特別展のサテライト展示（全国科学館連携協議会との連携展示）や夏季と冬季企画展関連企画の巨大段ボール迷路を実施したほか、映像展示室で特別展関連企画のお化け屋敷を実施するなど、館内施設の有効活用を行なった。
- ・ 常設展示リニューアルに向けて、関連する資料の調査及び展示手法についての情報収集を行った。
- ・ 博物館活動の充実のため、三重県博物館協会が実施する学芸員研修などに参加。

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 引き続き、質の高い特別展、企画展を実現するため、資料調査の実施体制を整備していく必要がある。
- ・ 次年度以降も機会を捉えて、職員の資質向上のための研修に取り組んでいきたい。
- ・ 展覧会関連事業を効果的に実施するために、博物館の資料展示環境の保全に配慮しつつ、エントランスホール等の館内施設の有効活用を推進する必要がある。
- ・ 次年度以降、常設展示リニューアルの施工を行うため、充実した展示内容となるよう関連資料の調査や展示手法等の情報収集を進める必要がある。

### 【図書館】

#### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 資料収集、調査研究、情報提供、職員研修、県内外文化施設との連携  
美術館の企画展開催にあわせ 11/28 に「展覧会がもっと面白くなるアート&ブックガイド」を開催、参加者 11 名
- ・ 県立図書館展示コーナーにおける各文化施設との連携展示 11 回  
ブックリストの配布 34 種類

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 資料収集、調査研究、情報提供、職員研修、県内外文化施設との連携  
引き続き、県立文化施設の企画展等にあわせた連携イベントを実施していく。
- ・ 県立図書館展示コーナーにおける各文化施設との連携展示

引き続き、県立文化施設の企画展等にあわせた連携展示及びブックリストの配布を行う。

## 【文化振興課】

### （令和 7 年度の実施結果）

- ・ 総文の貸館において情報保障の手段を確保し、利用者の利便性及び満足度の向上を図ることを目的に、携帯型ヒアリングループを購入するためのクラウドファンディングを実施し、44 万 6 千円の寄附があった。
- ・ 県立文化施設ネットワーク会議を 3 回実施するなかで、令和 8 年度の重点事業について議論を行い、東紀州キッズ文化体験ツアーを企画。12/11 に主に若手職員を対象とした人材育成研修を実施、16 名参加。

### （残された課題と令和 8 年度の実施）

- ・ クラウドファンディングで令和 7 年度に集まった寄付金をもとに、携帯型ヒアリングループを購入予定。
- ・ 県立文化施設連携事業  
引き続き、県立文化施設ネットワーク会議において、相互協力関係の推進や人材育成を行う。
- ・ 三重県誕生 150 周年事業で 8 月に東紀州キッズ文化体験ツアーを実施するにあたり、対象者に開催情報が届くよう、効果的な募集・周知をする必要がある。
- ・ 令和 6 年度の周年イヤーや令和 8 年の三重県誕生 150 周年で連携を行ったように、今後県政の動向を見据えて、県立文化施設が連携して相乗効果を発揮できるような事業の検討が必要。

## 2. 人を育てる

### (1) 成果指標

| 指標                             | R4<br>—<br>実績 | R5<br>目標<br>実績       | 計画期間                 |                      |          |
|--------------------------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------|
|                                |               |                      | R6<br>目標<br>実績       | R7<br>目標<br>実績       | R8<br>目標 |
| 文化や芸術の鑑賞・体験授業に参加した児童生徒等の人数(※1) | —<br>27,014 人 | 28,600 人<br>26,946 人 | 30,200 人<br>32,994 人 | 31,800 人<br>19,201 人 | 33,500 人 |
| 文化振興に係る人材の育成を目的とした事業の参加者数(※2)  | —<br>1,104 人  | 1,310 人<br>1,944 人   | 1,520 人<br>2,672 人   | 1,730 人<br>2,832 人   | 1,950 人  |

※1：県立文化施設が実施する児童生徒等の文化や芸術の鑑賞・体験を目的とした事業に参加した人数

※2：県立文化施設が実施する文化振興に係る人材（若い芸術家や文化振興を担う専門人材）の育成を目的とした事業の参加者数

### (2) 参考指標

| 指標                            | R4<br>実績 | R5<br>実績 | R6<br>実績 | R7<br>実績 |
|-------------------------------|----------|----------|----------|----------|
| 文化の担い手等、人材の育成を目的とした事業の実施数(※3) | 86 件     | 103 件    | 108 件    | 127 件    |

※3：県立文化施設が実施する文化振興に係る人材（若い芸術家や文化振興を担う専門人材）の育成を目的とした事業の実施数

### （３）取組概要

#### 基本施策７：文化の担い手の育成及び確保

##### 【総合文化センター】

##### （令和７年度の実施結果）

- ・ 新日本フィル演奏クリニック  
6/7・8 参加者数 220 人 工事閉館のため 1 月→6 月に時期を変更。
- ・ 戯曲アカデミア  
1/24・25 暁学園 講師：平田オリザ 受講者数：16 人  
1/31・2/1 いなべ総合学園 講師：平田オリザ 受講者数：7 人  
初の高校出張講座は顧問から高い評価を得た。
- ・ 三重県高等学校演劇連盟との連携事業  
5/3・4 「この物語」高校生招待公演 入場者数 180 人  
6/14 舞台創造講習会 参加者数 104 人
- ・ アートマネジメント人材等育成事業：8/19～8/29 計 4 日間 受講者数：38 人
- ・ 人材育成事業（人・まち・セミナー）  
伊賀市、志摩市、鈴鹿市で絵本の読み聞かせ、公民館講座の企画・運営、伝える力などのテーマで 6 回開催。
- ・ 貸館業務  
工事休館期間を含むため、施設利用は 12 月末までとなったが、民間プロモーター、学会、全国大会など大型の利用が多く、利用率 73.3%程度となる見込み。
- ・ 文化団体助成事業のあり方の検討：令和 7 年度文化振興育成事業（助成事業）  
（公財）伊賀市文化都市協会、（公財）四日市市文化まちづくり財団、（公財）亀山市地域社会振興会、シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢（指定管理者：㈱ケイミックスパブリックビジネス）。これら 4 市町（団体）への助成金交付。

##### （残された課題と令和 8 年度の実施）

- ・ 新日本フィル演奏クリニック：令和 8 年度も継続実施。
- ・ 戯曲アカデミア：令和 8 年度も継続実施。
- ・ 三重県高等学校演劇連盟との連携事業  
令和 8 年度は舞台技術の講師を変更し、「高校生のための演劇 school」に事業名を変更し開催。
- ・ アートマネジメント人材等育成事業 令和 8 年度も継続実施。
- ・ 人材育成事業（人・まち・セミナー）：川越町、鈴鹿市、名張市で 6 回の人材育成講座を開催。
- ・ 文化団体助成事業のあり方の検討：令和 8 年度も継続実施。
- ・ 貸館は分析から会議室をはじめとした小規模施設の利用者層が離れていることが判明。  
貸館再開に向けたメンテナンスと共にキャンペーン等での誘引策を講じる必要がある。

##### 【総合博物館】

##### （令和 7 年度の実施結果）

- ・ 学芸員実習の受入れ：公募により受け入れる A コースは、9 大学 12 名を受け入れ。三重大学との相互協定による連携事業として実施する B コースは、5 名を受け入れ。
- ・ ミュージアムパートナー（MP）：会員 378 名で、昨年度末から増加。郵便料金の改定によ

る経費増加の対策として、会報の発行回数を月1回から隔月に削減する代わりに会報1号あたりの頁数を増やし、内容の充実をはかるなどの改善を行った。企画展「地獄へようこそ」は、閉館後にMP向けのナイトミュージアムを開催し、好評を得た。

#### （残された課題と令和8年度の取組）

- ・ ミュージアムパートナー（MP）：会員数の維持・増加をはかるためにも事業の充実が求められている。
- ・ MP会員であることのメリットを感じられるような事業ができるように館として、また学芸員の専門性を活かして支援を行っていく。

### 【美術館】

#### （令和7年度の実績結果）

- ・ 博物館実習として7人の大学生を受け入れた。
- ・ 三重大学教育学部美術教育コースと連携し、小学生向けワークショップ「夏休みこどもひろば」を実施、29人参加。（再掲）
- ・ 中学校、高校の職場体験13校38人について、教員との打合せ、生徒からの電話対応、事前訪問等の対応及び受け入れを実施。（再掲）
- ・ ボランティア櫓の会、友の会の会議、会合等へ出席、各支援団体との一層の連携の維持強化に努めた。
- ・ 企画展毎のボランティア向けギャラリートークの実施。
- ・ ボランティアと協同して団体案内、資料整理、書庫整理等を実施。

#### （残された課題と令和8年度の実組）

- ・ 大学と協同し、博物館等にかかわる人材の育成を行う。
- ・ ボランティア櫓の会及び友の会等と連携協力関係を維持、強化し、美術館の機能や、その可能性を押し広げていく。

### 【斎宮歴史博物館】

#### （令和7年度の実組結果）

- ・ ガイドボランティア例会に同席して情報共有を行うとともに、博物館職員を講師にした勉強会や企画展の展示解説会などの研修活動の支援を行った。
- ・ 県内外の2大学から4人の実習生を受け入れて博物館実習（8/25～30 5日間）実施。
- ・ 地元中学校の生徒の職場体験（4人）を受け入れ、博物館活動の実地体験を行った。

#### （残された課題と令和8年度の実組）

- ・ 「斎宮いつきのみやガイドボランティア」との連携は、現在推進している史跡周遊プログラムを整備するにあたって重要と考えられるため、引き続きガイド技術や知識のより一層の向上に向けて継続的に支援を充実させていく必要がある。
- ・ 毎年1～2月に開催に協力してきた松阪・紀勢界限まちかど博物館企画展が令和6年度をもって一区切りとなり、今年度以降は開催しないため、今後の連携・支援のあり方について検討が必要。

## 【図書館】

### （令和 7 年度の取組結果）

ボランティア活動回数 32 回

（内訳）

本の修理工房 11 回、月末書架整理 9 回、社会見学、図書館探検隊 9 回、図書館探検ツアー 1 回、研修参加 2 回 延べ 61 名

おはなし会ボランティアグループによるおはなし会を 61 回開催。

おはなし会ボランティアグループの交流会を実施、参加者 9 名（11/15）

### （残された課題と令和 8 年度の取組）

引き続き、ボランティアと連携し、図書館活動の充実に取り組む。

## 【社会教育・文化財保護課】

### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 専門知識の向上を図るための講習会等を行う三重県文化財保護連絡会議等の開催・実施  
文化財保護連絡会議 2 回、世界遺産講演会 2 回、世界遺産保全推進協議会 1 回
- ・ 埋蔵文化財センターにおける文化財サポートスタッフの養成  
公開考古学講座 4 回、なんでも実験考古学 1 回、まいぶん祭 1 回、  
サポートスタッフ のべ 38 名

### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 専門知識の向上を図るための講習会等を行う三重県文化財保護連絡会議等の開催・実施  
文化財保護連絡会議 2 回、世界遺産講演会 2 回、世界遺産保全推進協議会 1 回  
世界遺産追加登録に向けた気運醸成
- ・ 埋蔵文化財センターにおける文化財サポートスタッフの養成  
公開考古学講座（「文化財のみかた講座」や「体験講座」）の中で、サポートスタッフの  
研修機会を確保する  
サポートスタッフの継続的な育成

## **基本施策 8：顕彰**

### **【文化振興課】**

#### **（令和 7 年度の取組結果）**

- ・ 6/1 第 24 回三重県文化賞の表彰式を実施。
- ・ 8/12 から第 25 回三重県文化賞の募集を開始し、県内各施設や文化団体、過去受賞者、関係団体等に対して募集要項・チラシを送付。
- ・ 3 回の選考委員会の選定を経て、受賞候補者として 11 者・2 団体を決定。

#### **（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- ・ 前回の募集件数（45 件）を上回る応募数を目指して広報活動に取り組んだが、40 件の応募に留まった。募集期間に限らず、文化賞の制度を周知するリーフレットを作成し、取材先に配布するなど、若年層の取り込みや応募総数の増加に努める。

### 3. 歴史をつなぐ

#### (1) 成果指標

| 指標                                               | R4<br>—<br>実績 | R5<br>目標<br>実績 | 計画期間           |                |          |
|--------------------------------------------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------|
|                                                  |               |                | R6<br>目標<br>実績 | R7<br>目標<br>実績 | R8<br>目標 |
| 文化財の保存・活用・継承に向けた支援活動の実施件数(※1)<br>※みえ元気プランのKPIと同一 | —<br>79 件     | 77 件<br>117 件  | 82 件<br>91 件   | 87 件<br>94 件   | 92 件     |

※1：関係団体や市町等とともに文化財の保存・活用・継承に向けて取り組んだ件数

#### (2) 参考指標

| 指標                              | R4<br>実績 | R5<br>実績 | R6<br>実績 | R7<br>実績 |
|---------------------------------|----------|----------|----------|----------|
| 新規指定等の保護措置がはかれる国・県指定等の文化財の数(※2) | 23 件     | 10 件     | 3 件      | 15 件     |

※2：地域社会総がかりで保存・活用・継承を図るため新規指定等の保護措置がはかれる国・県指定等の文化財の数

### （３）取組概要

#### 基本施策９： 三重の歴史的資産等の保存、活用及び継承

##### 【総合博物館】

###### （令和７年度の実施結果）

- ・ 資料寄贈について県民等からの問い合わせに応じ、資料調査にもとづき、収集の是非について精査のうえ、資料を受け入れた。  
寄贈・購入検討資料件数：58 件 収集資料件数：43 件
- ・ 毎月実施している館職員の収蔵庫の定期清掃、点検により、収蔵庫内の健全な保存環境の維持が図れている。定期的に実施している文化財害虫のモニタリングにより確認。
- ・ 三重県博物館協議会に資料収蔵検討部会を設置し、資料収蔵（収集、保存、管理等）に関する３つの方針と８つの要領をまとめた。あわせて、収蔵資料の整理及び保管状況の把握と改善に努めた。

###### （残された課題と令和８年度の実施計画）

- ・ 三重県総合博物館資料基本方針等を４月に公開。博物館の基本的な業務である資料の収集、保存、調査研究、展示等普及公開活動のさらなる推進を図る。
- ・ 資料寄贈の問い合わせが多く、資料調査から受入れまで、人・時間が不足。
- ・ 博物館活動の根幹をなす各学芸員の調査研究活動は、業務時間内において十分な時間が確保できていないことが、慢性的な課題。

##### 【美術館】

###### （令和７年度の実施結果）

- ・ 令和６年度に実施したクラウドファンディングの寄附金を活用し、ジャコモ・マンズー《ジュリアとミレトの乗った大きな一輪車》及び多田美波《作品 91》の修復を実施。修復は見学可能とし、寄附者には修復報告を行った。また、他６点の油彩画の修復等を実施した。
- ・ 令和６年度専門委員会の承認を得て、伊勢長島藩主増山雪斎及び雪斎周辺作家の作品２６点を収蔵。令和７年度第１回専門委員会の承認を得て、橋本平八作品等１０点、第２回専門委員会の承認を得て、久保舎己作品３０点を収蔵。（再掲）
- ・ 他館で開催の１３本の展覧会に２８点の作品を貸し出し、コレクションを有効に活用した（寄託作品含）。
- ・ 伊勢型紙技術保存会、鈴鹿市文化財保護審議委員会、四日市市文化財保護審議委員会などに出席し、各市の文化事業に協力。市民展等の運営、審査、展示、講評等に協力し、各市文化活動への支援を行った。（再掲）

###### （残された課題と令和８年度の実施計画）

- ・ 収集方針に則りコレクションの充実に努め、調査研究を継続、その成果を発信することで作品の価値を次代に繋ぐとともに、適切な保存管理を行う。
- ・ 県内市町等の要請に応じて、文化を活かした地域の活性化に協力する。

##### 【斎宮歴史博物館】

###### （令和７年度の実施結果）

- ・ 特別展、春季・夏季企画展に加えて、冬季企画展、秋季と冬季に企画展示を新たに開催し、斎宮関係をはじめとする三重の歴史的資産を公開する機会の充実をはかった（展示

観覧者数 35,182 人)。

- ・ 史跡整備に向けて、史跡西部において飛鳥・奈良時代の実態解明、史跡東部において方格街区の区画道路の確認のための発掘調査を行った。
- ・ 斎宮跡出土重要文化財（5 点）の修理を行った。
- ・ 斎宮跡出土資料の重要文化財追加指定に向けた取組を行った。

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 質の高い特別展、企画展等を開催し、斎宮をはじめとする三重の歴史的資産を効果的に公開活用していくためには、資料の調査研究体制を強化していく必要がある。
- ・ 発掘調査では、史跡斎宮跡の全容解明に向けて計画的に発掘調査を進めるとともに、現地説明会による発掘調査成果の公開や発掘体験などの事業を通して、斎宮跡の魅力を幅広く発信し、史跡全体の活性化につなげていく必要がある。
- ・ 斎宮跡出土重要文化財の修理を進めるとともに、追加指定が実現すれば、それらを展示公開するなど活用を進める必要がある。

### 【図書館】

#### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 歴史的資産の地域資料収集 145 点

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 伝統芸能等の歴史的資産収集を進める。

### 【小中学校教育課】

#### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 芸術系教科等担当教員等全国研修会には、2 市から計 3 名の教員が参加。
- ・ 国事業実施学校数（実施市町数）  
芸術家の派遣事業 2 校（1 市）、学校巡回公演 41 校（11 市 5 町）  
ユニバーサル公演 1 校（1 市）

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 芸術系教科等担当教員等全国研修会について、今後さらに参加を募り、芸術系教科等における指導の充実を図る。
- ・ 舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）や学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業（ユニバーサル公演）などの国の事業を活用し、子どもたちの豊かな感性を育み、芸術鑑賞能力の向上、文化的な活動の地域格差の解消を推進する。

### 【社会教育・文化財課】

#### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 三重県文化財保護審議会の開催 2 回、県指定文化財 指定 5 件、解除 1 件
- ・ 文化財の整備・修理等に対する補助金の交付  
国指定文化財 58 件、県指定文化財 12 件
- ・ 国庫補助事業への申請支援：申請件数 71 件
- ・ 公式 YouTube チャンネル「社文課 TV」、公式 Facebook ページ「守ろう 活かそう 三重の文化財」、HP「みえ祭アーカイブ」、Instagram などですぐ、文化財の魅力やイベント情報を発信。

- ・ 祭りの映像記録作成支援、過去の映像記録のデジタル化、記録のアーカイブ化  
県指定無形民俗文化財の撮影 1 件、無形民俗文化財の映像編集 10 件
- ・ 民間助成事業の周知と申請支援：助成決定事業 1 件
- ・ 尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町内の参詣道の調査の実施と学術調査報告書Ⅲの刊行
- ・ 世界遺産講演会の開催 2 回（第 1 回：紀北町 75 名）（第 2 回：多気町）※3/7 実施
- ・ 「みえ祭探検隊」の実施  
日時、場所：10/13（伊勢市）、参加団体：5 団体、参加児童・生徒：28 名
- ・ 埋蔵文化財センターで下記を開催  
まいぶん祭 1 回 なんでも実験考古学 1 回 出前授業 15 回 出前講座 12 回  
公開考古学講座 5 回 埋蔵文化財展 1 回 三重の実物図鑑展示 1 回
- ・ 「三重・石川・福井 3 県海女漁合同パネル展」の開催  
開催期間：1/19～2/2、場所：賓日館（伊勢市）、見学者数 812 人
- ・ 全国各地で開催される三重県フェアにおける海女漁映像展示：8 回
- ・ 有形文化財（美術工芸品）にかかるパンフレットを作成。3 月刊行。
- ・ 市町による「保存活用地域計画」と個別文化財の「保存活用計画」の作成に係る検討委員会への参画 個別文化財保存活用計画 2 件

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 引き続き、令和 7 年度の取組を実施。
- ・ 「近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会・三重大会」の開催
- ・ 埋蔵文化財展を朝日町で実施
- ・ 文化財の価値や魅力、イベント情報の積極的な情報発信
- ・ 世界遺産登録候補資産の国史跡指定の推進
- ・ 世界遺産の追加登録に向けての気運醸成
- ・ 海女漁文化の周知や情報発信による、ユネスコ無形文化遺産登録への気運醸成
- ・ 無形民俗文化財の担い手不足
- ・ 埋蔵文化財センターにおける松阪・嬉野地域以外の県民への情報発信
- ・ 「文化財保存活用地域計画」や個別文化財の「保存活用計画」の策定促進

#### 4. 文化を生かす

##### (1) 成果指標

| 指標                                      | R4<br>—<br>実績 | R5<br>目標<br>実績 | 計画期間           |                |          |
|-----------------------------------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------|
|                                         |               |                | R6<br>目標<br>実績 | R7<br>目標<br>実績 | R8<br>目標 |
| 県立文化施設を中核とした文化観光ルートを構築した地域数(累計)<br>(※1) | —<br>—        | 1件<br>1件       | 2件<br>3件       | 3件<br>4件       | 5件       |

※1：県立文化施設を起点とし、県内5地域（桑名・四日市地域、斎宮・伊勢地域、鳥羽・志摩地域、伊賀・名張地域、東紀州地域）を結ぶ「文化体験ルート」を想定し、構築できた地域数

##### (2) 参考指標

| 指標                                                                      | R4<br>実績       | R5<br>実績       | R6<br>実績       | R7<br>実績        |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 県立文化施設が企画展示や公演事業、地域の自然・歴史文化資産の保存活用等を通じて市町や地域の文化団体などさまざまな主体を支援した取組の数(※2) | 132 件          | 132 件          | 195 件          | 168 件           |
| 「三重の文化」に係る SNS による情報発信が閲覧された数(※3)                                       | 38,892 件/<br>月 | 69,072 件/<br>月 | 82,955 件/<br>月 | 105,190 件/<br>月 |

※2：県立文化施設が企画展示や公演事業、地域の自然・歴史文化資産の保存活用等を通じて市町や地域の文化団体などさまざまな主体を支援した取組の数

※3：「三重の文化」に係る、SNS(X、Facebook)による情報発信が閲覧された数

### （３）取組概要

#### 基本施策 10：文化を生かした地域の活性化

##### 【美術館】

##### （令和７年度の実施結果）

- ・ 伊勢型紙技術保存会、鈴鹿市文化財保護審議委員会、四日市市文化財保護審議委員会などに出席し、各市の文化事業に協力。また、市民展等の運営、審査、展示、講評等に協力し、各市文化活動への支援を行った。（再掲）
- ・ 美術館友の会と共同し、菰野町、名張市、松阪市、鈴鹿市、いなべ市、志摩市で美術セミナーを開催、242 人参加。（再掲）

##### （残された課題と令和８年度の実施）

- ・ 引き続き、各市の文化事業に協力を行うとともに、美術館友の会と共同し、各地で美術セミナーを実施。

##### 【斎宮歴史博物館】

##### （令和７年度の実施結果）

- ・ 地元の明和町や地域の諸団体と連携して、地域で行われる斎王まつり、こどもワイワイフェスタ、観月会などの催しに合わせて、ブース出店したり、館内で連携イベントを開催したりするなどの取組を行い、博物館の入館者数は、斎王まつり（6/7）開催日 1,480 人、こどもワイワイフェスタ（10/19）の開催日 3,420 人など大きな相乗効果があった。
- ・ 斎王まつり（6/7）に連動させて、トークイベント＆写真撮影会「続・清田のぞみと学ぼう！斎王の旅のよそおい」を開催し、一日で 1,480 人の入館利用を得た。３月実施予定の斎宮への情熱展の会期中にも、こどもわいわいフェスティバルが開催される 3/20 に、「斎王まつり」でたどる「斎宮跡の足跡」のイベントを実施予定（再掲）
- ・ いつきのみや歴史体験館やさいくう平安の杜などの史跡内施設と連携して、史跡内を巡るスタンプラリー（夏季企画展：参加 969 人）、電気自動車「もうぐる」乗車体験ツアー（GW、特別展開催中の土日祝日など実施：参加 403 人）、壺装束試着＋もうぐる乗車周遊ツアー（４日 34 人）、特別展と連動開催のお化け屋敷（映像展示室）＋史跡内クイズラリー（参加 3,177 人）などを実施。（再掲）
- ・ 斎宮歴史博物館では、史跡整備のための発掘調査を開始するとともに、斎宮跡の発掘体験などを実施し、斎宮跡の発掘への関心と理解を深める機会を提供。
- ・ 斎宮を核とした文化観光を推進するため、ガイドボランティアの育成支援（毎月１回の例会への同席と研修会の講師など）及び斎宮跡の発掘体験などを実施。

##### （残された課題と令和８年度の実施）

- ・ 引き続き、明和町や地域の諸団体と連携して、地域で行われるイベントに参画していくことにより、地域による文化活動の活性化に寄与するとともに、博物館及び斎宮跡の賑わい創出を推進する必要がある。
- ・ 限られた館内のマンパワーを適切に配分して、効果的な活動を展開する必要がある。
- ・ 引き続き、斎宮を核とした文化観光を推進していくために、斎宮跡の整備を進めるとともに、ガイドボランティアなどの担い手の育成を継続発展させていく必要がある。

## 【図書館】

### （令和 7 年度の実施結果）

- ・ 地域資料を収集・組織化し、利用に供することで利用者の課題解決や調査研究を支援。

### （残された課題と令和 8 年度の実施）

- ・ 引き続き、地域資料の収集等を行い、利用者の課題解決等を支援。

## 【文化振興課】

### （令和 7 年度の実施結果）

- ・ 文化体験ルートとして構築した海女文化、万博シリーズは SNS 配信後、県ホームページで公開。
- ・ 北勢の近代化遺産について文化体験ルートを構築しつつ、藤堂高虎と津、藤堂高虎と伊賀についての配信を順次進めながら、上記 3 ルートのホームページのアーカイブ配信の作業を進めている。

### （残された課題と令和 8 年度の実施）

- ・ 引き続き、文化体験ルートの構築を進める。
- ・ 配信が完了した文化体験ルートの県ホームページへの公開準備を進める。

## 【南部地域振興企画課】

### （令和 7 年度の実施結果）

- ・ 一次産業等の体験の機会として、御浜町及び紀宝町でみかん収穫ワークショップ、伊勢市で蓮台寺柿収穫ワークショップ、尾鷲市で甘夏収穫ワークショップを実施、計 271 名が参加。  
収穫ワークショップを PR するイベントを三重テラスと東京駅至近の会場で実施、計 66 名参加。
- ・ 地域のネットワークづくりを目的とした連続講座は、南勢志摩地域で 5 回、松阪地域で 7 回、紀北地域で 3 回、紀南地域で 3 回実施。

### （残された課題と令和 8 年度の実施）

- ・ 南部地域における関係人口の創出につなげるため、次年度も一次産業等の体験を受け入れるとともに、参加者に地域のイベントへの参加を促す。
- ・ 連続講座については、形成されたネットワークをさらに拡大するため、次年度も継続して実施。

## 【東紀州振興課】

### （令和 7 年度の実施結果）

- ・ 12/6 に熊野古道一斉クリーンアップ作戦（馬越峠、三瀬坂峠、波田須の道、ツヅラト峠、松本峠）を実施。1/18 女鬼峠、1/24 馬鹿曲がり、2/18 馬越峠、2/21 二木島峠・逢神坂峠、2/28 三瀬坂峠、3/6 ツヅラト峠、3/7 本宮道で清掃ウォークを実施。
- ・ 県内小中学生を対象にした保全体験ツアーを 11/8 馬越峠、1/17 松本峠で実施。
- ・ 和歌山県等との広域連携による観光客の受入環境整備や、（一社）東紀州地域振興公社等と連携して外国人旅行者の誘客促進や体験型コンテンツの造成等を実施。

### （残された課題と令和 8 年度の実施）

- ・ 引き続き、熊野古道サポーターズクラブの活動や熊野古道一斉クリーンアップ作戦、県

内の小中学生や企業を対象とした保全体験ツアーを実施予定。

- 引き続き、和歌山県等との広域連携による観光客の受入環境整備や、(一社) 東紀州地域振興公社等と連携して外国人旅行者の誘客促進や体験型コンテンツの造成等を実施予定。

## 【交通政策課】

### (令和7年度の実証結果)

実証事業として、

- 春期：「熊野古道伊勢路における二次交通実証運行(バス)」
- 秋期：「熊野古道伊勢路における二次交通実証運行(バス)」及び「熊野古道伊勢路における二次交通実証運行(タクシー)」を実施。

### (残された課題と令和8年度の実証)

- 令和7年度の実証運行をふまえ、令和8年9月からのタクシーを活用した実証運行を、ルートを拡大して3峠で行う。あわせて本運行のプロモーションを強化し、さらなる利用促進を図る。

## **基本施策 11：文化と観光等との連携【重点】**

### **【総合文化センター】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ ものしりトラベラー（観光とまなび）  
みえの餅街道、松坂城をテーマに講座を開催。松坂城がテーマの講座は名張市へのアウトリーチで開催。参加者数 168 人。
- ・ アートショップ「Mikke」の運営  
食品群の積極展開、季節商品の先行取扱いにより、空白期間の無いフェア、企画を年間通じて実施。

#### **（残された課題と令和 8 年度の実施）**

- ・ ものしりトラベラー（観光とまなび）  
みえの祭、伊勢街道と神戸城をテーマに講座を開催予定。伊勢街道と神戸城がテーマの講座は松阪市へのアウトリーチで開催。
- ・ アートショップ「Mikke」の運営  
工事休館中でも販売活動が継続できるよう、アウトリーチ事業への同行やネット販売など販路拡大に努める。

### **【総合博物館】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ 大台町で移動展示を実施し、令和 6 年度から町内小学校の協力のもとで実施したお雑煮調査の成果を展示。
- ・ 学芸員講座（出張講座）：講座メニューに「三重のお雑煮」をテーマに加え、担当職員により 2 件実施、46 名参加。
- ・ ミュージウムパートナー（MP）の民俗グループとともに、味噌づくり教室「みそをつくらう」（MP 対象）を実施するなど、食文化の調査や普及事業に取り組んだ。
- ・ 館ホームページ内に、これまで MieMu で取り組んできた食に関する調査・研究の成果を伝えるページ「MieMu 食文化ミュージウム」を開設した。このページでは、基本展示室内の食文化関係の展示に関するマップを掲載したほか、これまで作成・公開してきた食文化関連の YouTube 動画、学芸員等が執筆した食文化に関する論稿や解説文等を掲載、リンク付けを行った。
- ・ 「ポケモン化石博物館」において、政策企画部が行う三重県のプロモーション推進事業と連携して「ミジュマルの日」イベント（3/8）でスタンプラリーを実施した。（スタンプラリーポイント：総合博物館、美術館）

#### **（残された課題と令和 8 年度の実施）**

- ・ 隔年で実施している移動展示で、開催地域と連携してお雑煮調査を実施（次回開催地域：未定）。
- ・ 将来の企画展等につなげられるように、食文化の調査研究を引き続き行っていく。
- ・ 今後も食文化ミュージウムのホームページの充実をはかっていくことが必要である。

### **【斎宮歴史博物館】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ 秋季企画展示として、有職彩色絵師の林美木子さんの有職工芸作品展「林美木子展〜王

朝のみやび〜」(9/6～9/28、観覧者数 672 人)を開催、満足度 87.5%と高評価を得た。

#### (残された課題と令和 8 年度の取組)

- ・ 伝統産業や伝統工芸に関連する諸団体等とも連携し、展示やイベント等を通して、三重の伝統産業や伝統工芸品に親しむ機会をつくるとともに、博物館の新たなファン獲得につなげていく必要がある。

### 【図書館】

#### (令和 7 年度の取組結果)

- ・ 農林水産部フードイノベーション課との連携展示「食育」の中で、地産地消や三重ブランドについての展示を行った。

#### (残された課題と令和 8 年度の取組)

- ・ 引き続き、連携展示等により地域の伝統産業や食文化の魅力の発信に取り組む。

### 【県産品振興課】

#### (令和 7 年度の取組結果)

- ・ 三重テラス：伝統工芸や食の事業者による対面販売及び県内食品事業者と連携したポップアッププレストラン等のイベントを開催。  
事業者による対面販売 35 回、ポップアッププレストラン 8 回（ともに 3 月末時点）
- ・ 三重県フェア：県内外の 9 店舗で開催し、伝統産業・地場産業の商品の販売やワークショップ、ステージ等体験イベントを実施。  
事業者による催事出展 非食品事業者延べ 26 社、食品事業者延べ 135 社  
ワークショップ 5 回(伊勢玩具、伊勢型しおり作り体験)  
ステージ等体験イベント 4 回（三重の食などに関するクイズ大会、忍者ショー、忍者体験）
- ・ 2025 みえの食セレクション募集、選定  
三重テラスにおける対面試食販売の実施  
6/21 海童工房 魚寅、若戎酒造、7/19 荒木國一商店、7/26 トーエー、9/20 八風農園雅  
1/17 全農みえ、2/21 ブランカ、3/21 若松屋
- ・ 三重グッドデザイン：首都圏で選定商品の P R を行った。  
1/31～2/1 無印良品銀座、3/14～15 三重テラス
- ・ 三重の食結び  
海外における三重県フェア、バイヤー、国内のイベントでパンフレットを配布するなど、魅力発信に取り組んだ。  
1/15～22 三重県フェア in タイ、2/20 三重テラス  
3/10～13 Foodex Japan2026

#### (残された課題と令和 8 年度の取組)

- ・ 三重テラスにおいて、ショップやレストラン、イベントなどの機能を効果的に組み合わせ、全館一体で三重県の工芸品や地場産品の販売促進に取り組む。
- ・ イオン(株)との包括提携協定のもと、県内外で三重県フェアを開催し、県産品の販路拡大や三重県の総合的な魅力の発信に取り組む。
- ・ みえの食セレクションの選定を行うとともに、選定品を披露するフェアを開催する。また、三重テラスでの対面試食販売による P R を引き続き実施する。

- ・ 三重グッドデザインの選定を行うとともに、選定品を披露するフェアを開催する。

## 【大阪・関西万博推進PT】

### （令和7年度の取組結果）

- ・ 関西パビリオン内に出席した三重県ブースでは、「日本のこころの原点～美し国みえへとつづく時を超えた物語～」をテーマに、県内5地域の魅力を国内外に発信。  
県内29市町の自然や観光地などの映像を映し出した「時のトンネル」や、触れたり香りを体験することができる引き出し展示に加えて、「熊野古道」「常若」「歴史・文化」「自然」「産業」「食」の6つのテーマを設けた期間限定特別展示、市町デーとして県内市町の魅力を発信するワークショップを実施  
184日間の会期中における来場者数：63万2,334人（1日平均3,437人）
- ・ 万博会場で開催した催事  
（1）「～三重のおまつり大集合!～ M I E フェスティバル in E X P O」  
「祭り」をテーマに、県内各地の10の祭りを実演・展示したほか、市町や事業者等がブースを出展して、三重県の魅力をPR  
9/22：E X P Oアリーナ「Matsuri」、来場者数：13,418人  
（2）「美し国彩り（いろどり）三重バザール」  
「三重の食体験」をテーマに、県内各地の食文化体験や県産品販売、観光PR等を前期、後期の計2回実施  
開催日：（前期）6/30～7/6（後期）9/2～9/8 ※8日は温泉デーを実施  
会場：関西パビリオン多目的エリア  
来場者数：68,239人（前期：30,271人、後期：37,968人）
- ・ 会期中、73校（生徒数：15,580人）が万博会場に来場し、国内外のパビリオンを見学することで、世界の文化や最先端の技術などへの興味・関心を高める機会を提供。  
来場学校数：73校 ※対象625校中の11.7%が来場  
来場校内訳：小学校15校、中学校33校、高校21校、その他（特別支援学校・高等専門学校・中等教育学校）4校

### （残された課題と令和8年度の取組）

- ・ 今後は、大阪・関西万博での出展の成果や気づきをふまえ、国内外からの関心の高まりを三重県への来訪に結びつけられるよう、令和15年の式年遷宮も見据えながら、観光誘客のさらなる推進や、多様な主体と連携したプロモーションを展開するなど、引き続き三重県のさらなる認知度の向上や魅力発信に取り組む。

## **基本施策 12：歴史と伝統文化を生かした郷土愛の醸成**

### **【総合博物館】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ 近年収集した資料のお披露目を兼ね、トピック展「伊勢路がみたい 伊勢参宮名所図屏風の世界」（5/3～5/18）を開催。NHK で伊勢参宮に関する番組が全国放送され、式年遷宮の行事が始まるなど、伊勢参宮の関心の高まりに応える展示として好評を得た。
- ・ 県内に所在する地獄に関連する絵画、彫刻等の文化財（重要文化財、県・市指定文化財を多数含む）を紹介する企画展「地獄へようこそ 鬼と亡者と閻魔の世界」（7/26～9/23）を開催。
- ・ 企画展「発掘された日本列島 2025」（10/18～12/14）を開催し、全国巡回しているメインの中核展示とともに、三重県総合博物館独自の伊賀の古墳時代に焦点を当てた地域展示「王権東へ 伊賀の古墳時代」を、三重県埋蔵文化財センター、伊賀市教育委員会、名張市教育委員会の共催で実施し、三重の歴史に親しむ機会を提供。

#### **（残された課題と令和 8 年度の実施）**

- ・ 令和 8 年度は、三重のまつりをテーマとする企画展を実施し、三重の多様で地域性豊かな伝統文化を紹介するとともに、関連行事として、獅子舞などの公演などの体験を通して理解や興味を深める機会を提供する。
- ・ 三重県ゆかりの人物の展示については、植木等、松浦武四郎、高畑勲などを企画展のテーマに取り上げてきた。関係機関と連携をはかりながら、今後も三重県ゆかりの人物の展示を検討する必要がある。

### **【美術館】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ 伊勢市出身の彫刻家・橋本平八に関する調査研究を進め、過去最大規模の展覧会を実施するとともに、平八の弟で前衛詩人として評価の高い北園克衛の小特集を実施。子どもたちに親しみをもってもらえるよう津市出身のイラストレーター・伊野孝行氏による『木彫三昧 橋本平八』を作成・配布した。（再掲）

#### **（残された課題と令和 8 年度の実施）**

- ・ 三重県誕生 150 周年事業の一環として、増山雪斎展、榊莫山展を実施するとともに、引き続き、地域ゆかりの作家や作品を収集、再検証し、県内外にその作品や活動を広く発信する。

### **【斎宮歴史博物館】**

#### **（令和 7 年度の実施結果）**

- ・ 企画展や特別展などの展覧会、斎宮学講座（全 3 回）、さいくうミュージアム講座（全 9 回）、出前講座などの講演活動によって、斎宮の歴史やその背景となった歴史・文化について理解と関心を深める機会を提供。
- ・ 明和町をはじめとする県内の小中高学校の郷土学習に協力して、発掘体験（3 校 103 人）や出張授業（1 校 19 人）を実施。（再掲）
- ・ 明和町が町内で開催している地域史の講座（地元中学の生徒による地域史調べの発表もあり）にパネリストとして参加。
- ・ 三重県誕生 150 周年事業として「斎宮への情熱展」（3/11～3/29）を開催するとともに、

地元でこどもわいわいフェスティバルが開催される 3/20 に、「斎王まつり」でたどる「斎宮跡の足跡」として、歴代の斎王役 13 名が一堂に会するイベントを実施し、地域の人々に支えられ親しまれることによって保全継承されてきた斎宮跡についての愛着を深める機会とした。

#### **（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- 引き続き、研究成果に基づく質の高い展示や講座を実施することにより、三重を代表する歴史的資産である斎宮の歴史への理解と関心を深める機会の充実に努める必要がある。
- 明和町や地域の諸団体、学校などと連携協力し、限りのあるマンパワーを有効に活用し、郷土愛の醸成に向けた取組を推進していく必要がある。

#### **【図書館】**

##### **（令和 7 年度の取組結果）**

- 三重県に関わる資料の収集 1,680 点（重複本含む）
- 伊勢市を拠点に活躍した彫刻家・橋本平八に関する所蔵資料を、美術館で開催される「没後 90 年 橋本平八展」に合わせて展示紹介（7/1～10/30）

##### **（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- 三重県の地域資料収集を積極的に進める。
- 引き続き、三重にゆかりのある人物に関する資料を取集するとともに、資料等の展示紹介を実施することで、三重の歴史や文化について学ぶ機会の充実に取り組む。

#### **【小中学校教育課】**

##### **（令和 7 年度の取組結果）**

- 亀山市立昼生小学校、鳥羽市立鳥羽小学校、鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校の 3 校を研究指定校とし、郷土教育・キャリア教育の取組を推進した。各校における取組に必要な情報提供や教員研修を実施するとともに、2/9 に「実践校オンライン交流会」を開催、各校の成果報告を行った。
- 本取組の実践内容や成果を県内に広く普及・啓発するため、交流会を公開するとともに、小中学校教育課の Facebook を活用して活動の様子を掲載するなど、情報発信に取り組んだ。

##### **（残された課題と令和 8 年度の取組）**

- 実践校オンライン交流会の参加者は関係市町の教員等が中心となっている。引き続き、各研究指定校で郷土教育・キャリア教育の取組を進めるとともに、実践交流会を公開で実施し、取組の成果を県内に横展開していく。
- 本取組の実践内容や成果を周知するため、小中学校教育課の Instagram を活用した情報発信を行い、県内への一層の普及・啓発を推進する。
- 特に、令和 9 年度は、今年度の取組に加え、南部地域で 3 校を指定することを検討しており、南部地域における人口減少等の課題解決に向け、将来、南部地域を担う人材の育成を図る。

## **基本施策 13：三重の文化の魅力の発信と交流の推進**

### **【総合文化センター】**

#### **(令和 7 年度の実施結果)**

- ・ 全国公立文化施設協会の委員会、研修等に参加し、情報収集及び連携に努めた。
  - ① 総会・研究大会（6/12、13）
  - ② 東海北陸支部委員会（7/10 第 1 回）（11/6 第 2 回）（3/5 第 3 回）
  - ③ 東海北陸支部「舞台技術研修会（於：三重県総合文化センター）」（9/24、25）

#### **(残された課題と令和 8 年度の実施)**

- ・ 引き続き県外の文化施設との情報交換や文化交流の促進など、有機的な連携を継続。

### **【総合博物館】**

#### **(令和 7 年度の実施結果)**

- ・ 企画展「発掘された日本列島」、移動展示「たんけん！はっけん！大台町」、特集展示「ミニ館蔵品展」では、展示室内の様子を動画撮影したコンテンツ「展示室を歩いてみよう」を学芸員の手作りで制作し、当館ホームページの「MieMu@ほーむ」ページにおいて公開し、さらに SNS でアピールして、閲覧を促した。
- ・ 岐阜県博物館との交流企画として、相互に学芸員を派遣して各館で講演会を計画したが、8/31 の岐阜県博物館での当館学芸員の講演会は、岐阜県博物館の事情により中止。11/1 の当館での岐阜県博物館学芸員の講演会は、39 人参加した。（再掲）
- ・ 館ホームページ内に、これまで MieMu で取り組んできた食に関する調査・研究の成果を伝えるページ「MieMu 食文化ミュージアム」を開設した。このページでは、基本展示室内の食文化関係の展示に関するマップを掲載したほか、これまで作成・公開してきた食文化関連の YouTube 動画、学芸員等が執筆した食文化に関する論稿や解説文等を掲載、リンク付けを行った。（再掲）
- ・ 令和 6 年度末に修繕を行ったミュージアムフィールドの案内版に、ミュージアムフィールドで観察できる昆虫、植物、鳥に関して、館ホームページに掲載されている研究資料にアクセスできる二次元コードを掲載し、令和 7 年度から本格運用を始めた。

#### **(残された課題と令和 8 年度の実施)**

- ・ 今後も、企画展等で動画や写真による展示内容の紹介を行っていく。
- ・ 動画コンテンツの制作は、時間や労力、クオリティのこともあり、学芸員が手作りで簡易なものに制作が限られる。
- ・ 企画展等の借用資料については、所蔵者に動画撮影・公開についてあらかじめ承諾を得る必要がある。

### **【美術館】**

#### **(令和 7 年度の実施結果)**

- ・ 収蔵品データベースは日本語、英語で公開。著作権上問題のない作品については画像を公開。新収蔵品データを公開した。また、著作権保護期間内の作品についても、著作権法第 47 条に基づくサムネイル画像公開をめざし、画像の加工を進めた。
- ・ 企画展橋本平八展に際して、県外の美術館における調査等及び作品借用を実施した。
- ・ 福島県立美術館、富山県美術館、山梨県立美術館、北九州市立美術館と協同して、ポップアート展に関する研究を実施。

- ・ 宇都宮美術館と協同して、フランス美術展に関する調査研究を行い、出品交渉や図録作成を実施。
- ・ 千葉市美術館、山口県立萩美術館、北斎館と協同して、R8 年度の開催を目指している浮世絵花鳥版画の調査研究及び展覧会の企画を実施。
- ・ 広島県立美術館、SOMP0 美術館、久留米市美術館と協同し、8 年度の開催を目指しているアルベール・マルケに関する調査研究及び展覧会の企画を実施。
- ・ 他美術館で開催する 13 本の展覧会に 28 点の所蔵品（寄託作品含）の貸出しを行い、効果的に活用した。

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 他県立美術館と比しても職員数が少なく、情報公開の準備や発信、他施設との連携事業等対応が厳しい状況。
- ・ 引き続き、美術館ウェブサイトにて所蔵品データベースの公開を行い、国内外に向けて三重の文化の魅力を発信する。
- ・ 県内外文化施設と連携し、専門性や情報、ネットワーク、コレクションを活かした事業を展開する。

### 【齋宮歴史博物館】

#### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 従来から行ってきた X に加えて、新たにインスタグラムを開設して、SNS による情報発信を強化（インプレッション数 X：327,690、インスタグラム：59,831）。
- ・ SNS の運用に必要なスキル向上を目的とした職員研修を実施、効果的な発信に努めた。
- ・ 駅構内のサイネージ広告や新聞の折込チラシを行うなど、多様な広報活動を展開した。
- ・ 地元明和町や地域の諸団体と連携して、情報発信の相互連携や地域の自治会へのチラシの棚入れを行い情報発信の充実に努めた。
- ・ 県外文化施設との連携では、宗像・沖ノ島と関連遺産群によるカードラリーキャンペーン企画に全国各地の物館施設とともに参画協力したほか、これまで学術的連携を行ってきた県外の博物館とも、展覧会の情報をはじめ、チラシやパンフレットの配架など、情報発信での相互連携を継続して行っている。

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 引き続き、SNS や地元明和町や地域の諸団体と連携による情報発信に取り組むとともに、継続・発展させるなど、効果的な情報発信に努める必要がある。

### 【図書館】

#### （令和 7 年度の取組結果）

- ・ 『津藩史稿』第 14 巻～第 16 巻を公開。
- ・ 『三重県県会決議書 明治 39 年』（386 ページ）、『三重県工業試験場要覧』（105 ページ）、『三重県漁村調査（志摩郡之部）』（378 ページ）の PDF 化を完了。
- ・ 国立国会図書館長との懇談会 6/26、全国公共図書館協議会総会 6/27 に出席し、情報交換を行った。

#### （残された課題と令和 8 年度の取組）

- ・ 『津藩史稿』を順次公開。所蔵資料を順次 PDF 化。
- ・ 引き続き、情報交換等を行い、当館のサービス向上の参考としていく。